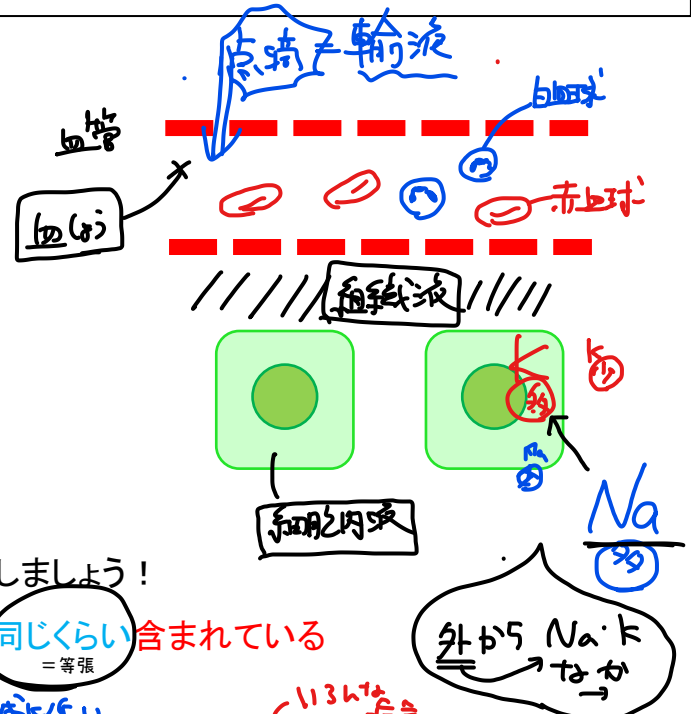
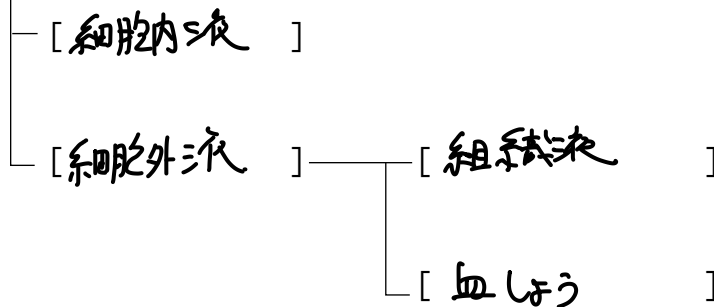


問1 輸液剤についての記述で誤っているのはどれか。[オリジナル]

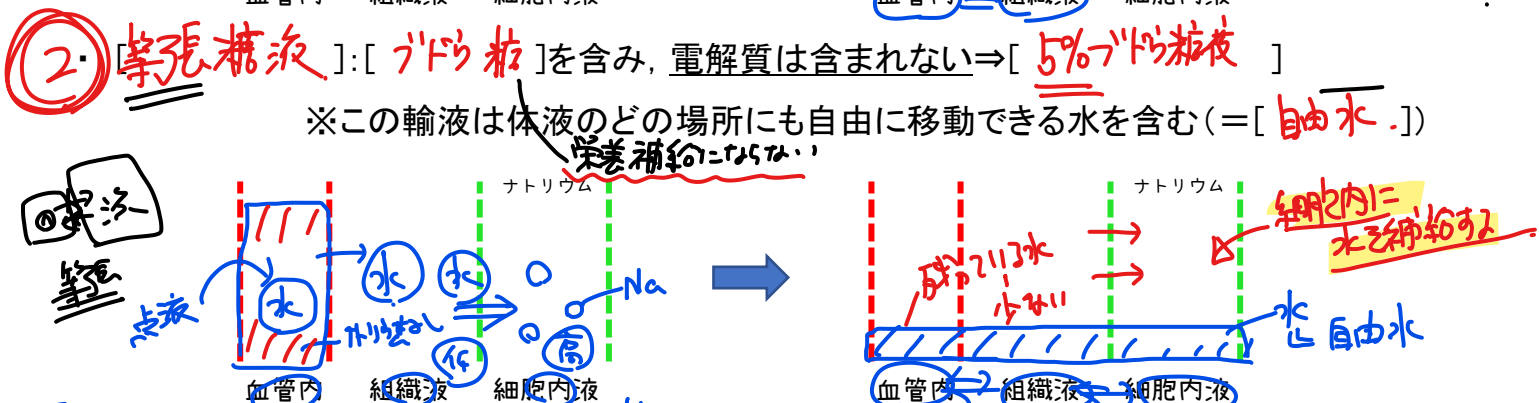
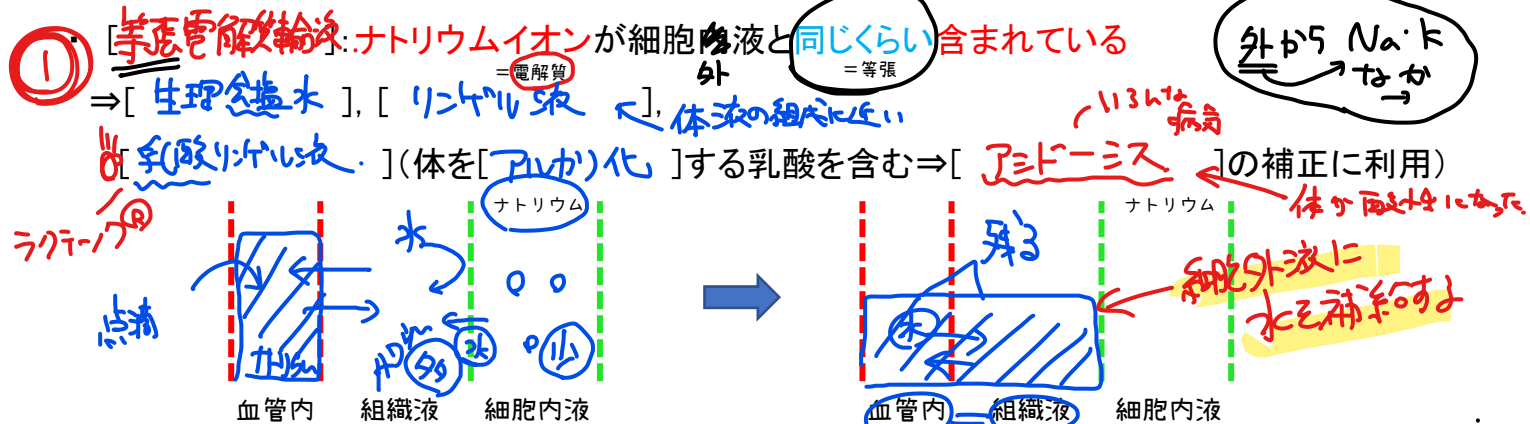
- ① 留置より遠位部の腫脹が認められた場合は、固定のテープに切れ目を入れたりマッサージをしたりする処置を実施する。✓
- ② 静脈内輸液は脱水状態の動物に対して、皮下輸液に比べて速やかな脱水の改善をはかることができる。✓
- ③ 輸液の投与量は、維持量、脱水量（不足量）、嘔吐下痢などによる水分喪失量を合わせた量で計算する。✓
- ④ 5%ブドウ糖液は、輸液内にグルコースを含むため、低栄養状態の動物に対して栄養補給を目的に静脈内に点滴する。✗ ※表は血。
- ⑤ 輸液中の動物のバイタルサインや可視粘膜の色調、穿刺部位の発赤や腫脹などのモニタリングは定期的に実施し、異常を認めた場合は獣医師に速やかに報告する。✓

◆輸液療法

・ 体の中の水分の分布



・ 輸液の種類 ※正直細かすぎて…ざっくりと理解しましょう！



・ [膠質液]: 投与すると、[血管内]に残る性質がある
 (コロイド液) ※血管内から輸液剤が移動して欲しくない時に使う

⇒[アルブミン製剤]など
 デキストラン、ハスター4.



◆輸液療法 (つづき)

・輸液量の計算

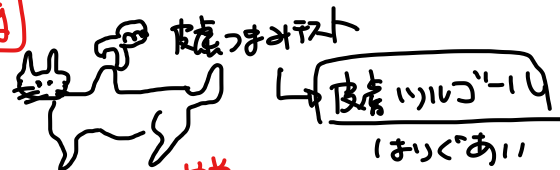
⇒ 輸液量 = [不足量 (脱水量)] + [維持量] + [喪失量] で求める

① 脱水量の評価

⇒ 脱水量 = [脱水の程度] × (% ⇒ $\div 100$) × [体重] (g) ... 1日あたり

【脱水の評価】

- [5%以下] : 身体検査上の異常はなし
- [5%] : 口腔粘膜の軽度な乾燥
- [6~8%] : [皮膚しわ] の軽度~中等度の低下, [CRT : 正常]
- [8~10%] : さらに進行した脱水
- [10~12%] : [皮膚しわ] の激しい減少, 口腔粘膜の乾燥, [CRT : 延長], 眼球陥没
沈うつ, 筋肉のれん縮
- [12~15%] : 明らかなショック状態 (= 切迫した死)



毛細血管の閉塞時間

例) 体重10kgの犬が8%脱水を呈している時の脱水量は何mlか??

$$8\% \div 100 = \frac{8}{100} \times 10 \text{ kg} = \frac{8}{100} \times 10000 = 800 \text{ ml}$$

② 維持量...動物が生きていくために必要な水分量 (糞便喪失量, 尿中喪失量, 不感蒸散)

⇒ 維持量 = 50~60ml × 体重 (kg)

③ 喪失量...[嘔吐] や [下痢] などで喪失した水分量 ※基本は問題に書かれている

例題 体重10kgの犬が6%脱水を示しており, 嘔吐下痢により24時間で全部で100ml喪失している。

このときの総輸液量は何mlか? 50ml/kg/日 ... 維持量

① 脱水量 = % ÷ 100 × 体重(g)

$$6\% \div 100 \times 10000 \text{ g} = \underline{\underline{600 \text{ ml}}}$$

① + ② + ③ = 輸液量

② 維持量

$$50 \text{ ml} \times 10 \text{ kg} = \underline{\underline{500 \text{ ml}}}$$

$$600 + 500 + 100$$

$$= \underline{\underline{1200 \text{ ml}}}$$

③ 喪失量

$$\underline{\underline{100 \text{ ml}}}$$